

33	岡山県立岡山御津高等学校	全日制	総合学科	26～28
----	--------------	-----	------	-------

平成26年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

高等学校において発達障害のある生徒への障害の改善・克服をするために、必要な知識・技能・態度を身に付ける領域（自立活動）を取り入れた教育課程の編成，自己理解や社会性に関連した指導内容を1対1の取り出し指導，あるいは少人数で行うことに関する研究とする。

2 研究の概要

本研究では，高等学校において，発達障害を含む障害のある生徒に特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」の領域を選択授業として設定し，①教育課程編成の在り方，②具体的な指導内容とそれに関する指導方法と評価方法，③指導形態について検討を進める。また，通常の授業においても特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを行い，「自立活動」の領域と関連をもたせ，指導がより効果的になるための指導方法を整理する。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の状況と研究の目的

本校は，平成17年4月に1学年4学級（定員160名）の総合学科として誕生した。生徒の学力については，中学校の学習内容を理解できないままにいる生徒の割合が高く，授業への取組は概して消極的である。また発達障害あるいは，その可能性のある生徒は毎年入学してきており，診断のある生徒や診断はないが特別の支援を必要とする生徒がどの学年にも在籍している。

研究の目的は，発達障害のある生徒に対する後期中等教育の障害の改善・克服をするための知識・技能・態度を育てる方法について効果と課題について提言する。

（2）研究仮説

障害の改善・克服の知識・技能・態度を育てる特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」を設定し，その内容を1対1あるいは小集団指導することで高等学校における学習及び生活さらには卒業後より豊かな生活を過ごすことがより可能になる。

(3) 教育課程の特例

平成 26 年度については、実態把握や実施計画を準備するため未実施である。

高等学校学習指導要領の必履修科目，総合的な学習の時間，ホームルーム活動に加え，特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」を加えて編成する。

自立活動の指導については，選択科目の一つとして扱い，実態から想定される指導内容や授業時間数・単位数は以下のとおりである。

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
特別支援学校の特別な指導領域である「自立活動」	コミュニケーション ストレスマネジメント アサーショントレーニング	2 年次 70 時間 2 単位時間
校内名称「キャリア活動」	スケジュール管理 等	2 講座

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

- ①特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり
 - ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業づくり
 - ・生徒が集中しやすい教室環境づくり
 - ・授業に見通しがもてる工夫
 - ・少人数講座の実施やチームティーチングの実践
- ②個々の能力・才能を伸ばす指導
 - ・①の実践と実態把握を含めながら，個々の得意なところを把握し，一斉指導に生かす。

(5) 研究成果の評価方法

- ・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討
- ・生徒や保護者へのアンケート形式による意識調査
- ・成果報告会での評価
- ・運営指導委員会による総括

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

自己理解と社会性の知識，技能を習得する「自立活動」2 単位（校内名称：キャリア活動）を新設する。

- ・1 対 1 あるいは 5 名以下の少人数（教員は 2 人体制）の指導形態で 2 講座実施する。
- ・障害の状態により必要に応じた教科の補充指導を実施する。

(2) 全課程の修了認定の要件

- ・欠課時数が指導時数（35 × 2 単位）の 3 分の 1 以下のとき履修とみなす。

- ・学習に対する意欲や態度，進歩の状況などを踏まえ，キャリア活動の目標からみて満足できると認められること。

(3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次 26年度	4月 準備委員会の設置 5月 中学校への情報収集 7月 第1回運営指導委員会 神奈川県立修悠館高等学校 訪問 文部科学省事業説明会 参加 第1回校内研究開発委員会「対象生徒候補者選び」 8月 滋賀県立日野高等学校 資料収集 9月 候補生徒 面談 福岡県立東鷹高等学校 訪問 10月 第1回教員研修会「高校生の発達障害」 対象生徒 面談 保護者への説明（電話・文書） 11月 第2回運営指導委員会 京都府立朱雀高等学校 訪問 岡山県総合教育センター 訪問 12月 保護者面談 徳島県発達障がい教育研究会 参加 1月 文部科学省事業研究協議会 参加 第3回運営指導委員会 島根県立邇摩高等学校 訪問 2月 徳島県立海部高等学校 訪問 神奈川県立綾瀬西高等学校 訪問 第2回校内研究開発委員会「個別の教育支援計画の検討」 3月 第1回校内企画委員会 3月 中学校への聞き取り 訪問 ※毎週金曜日2時間目に担当者会を開催
第2年次 27年度	4月 第1回校内企画委員会 第1回校内研究開発委員会 合同会議 (=研究開発企画委員会) 4月 「キャリア活動」指導実施 開始 5月 第1回校内研修会 「発達障害と共に生きる」当事者を招いて 講師未定 6月 第1回運営指導委員会 6月 関東方面先進地視察（2人） 7月 第2回校内研究開発委員会 7月 保護者懇談（支援の内容の説明と修正） 7月 第2回校内研修会

	<p>「発達障害の人とスムーズにコミュニケーションするために ～SSTやアンガーマネジメントを活用して～」 講師未定</p> <p>8月 第3回校内研修会 「通常の授業において特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり」 講師未定</p> <p>8月 九州方面先進地視察（2人）</p> <p>10月 第4回校内研修会 「発達障害のある卒業生の進路」 岡山市発達障害者支援センター 予定</p> <p>11月 公開授業または研究授業 中間報告会</p> <p>12月 第3回校内研究開発委員会</p> <p>12月 保護者懇談（支援結果の報告と次年度に向けて）</p> <p>12月 第2回運営指導委員会</p> <p>1月 文部科学省事業研究協議会</p> <p>2月 第4回校内研究開発委員会</p> <p>3月 第2回校内企画委員会</p> <p>3月 中間報告書の発刊</p> <p>3月 中学校への聞き取り 訪問</p> <p>※担当者会は週2回、開催する ※年間を通して専門指導員派遣事業を活用する</p>
<p>第3年次 28年度</p>	<p>4月 第1回校内企画委員会 第1回研究開発委員会 合同会議</p> <p>4月 対象生徒の観察・検証 開始</p> <p>5月 第1回運営指導委員会</p> <p>5月 校内研修会 「高校から大学への移行期の支援」 講師未定</p> <p>6月 事例検討会</p> <p>7月 第2回校内研究開発委員会</p> <p>7月 保護者懇談（支援結果の報告と将来に向けて～移行支援計画）</p> <p>8月 最終報告会</p> <p>10月 第2回運営指導委員会</p> <p>11月 校内研修会 「社会的自立に向けての指導・支援について」 講師未定</p> <p>12月 事例検討会</p> <p>1月 文部科学省事業研究協議会</p> <p>2月 第4回校内研究開発委員会</p> <p>3月 第2回校内企画委員会</p> <p>3月 最終報告書の発刊</p> <p>※担当者会は週2回、開催する</p>

(4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討 ・運営指導委員会による総括
第2年次	・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討 ・生徒や保護者へのアンケート形式による意識調査 ・成果報告会での評価 ・運営指導委員会による総括
第3年次	・個別の指導計画に基づく，目標設定や指導内容の妥当性の検討 ・生徒や保護者へのアンケート形式による意識調査 ・最終報告会での評価 ・運営指導委員会による総括

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 対象生徒への効果

本年度は未実施のため，記述できない。

② 教員への効果

諸検査により，発達障害または特別な支援の必要な生徒が多く存在することを実感し，生徒への理解を深め，対応したり検討したり，また授業改善に取り組む教員が増加した。

自立活動への理解も促した結果，校内研修に意欲的に参加した。

③ 保護者等への効果

対象生徒の決定については，理解を得た。

④ その他（地域の理解等）

学校評議員会議において，研究の主旨の理解と評価を得た。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

(問題点) 特別支援教育について教職員および保護者の理解が不十分である。

(今後の課題) 「特別支援教育」という視点から研修を考えていくが，どのような研修がよいか考えていく必要がある。

(問題点) 自立活動の具体的な指導方法についての知識・技能が不足している。

(今後の課題) 事例を通しながら具体的な指導方法を深めていく必要がある。

(問題点) 情緒が混乱した生徒への対応や未然に防ぐ指導内容についての知識・理解が不足している。

(今後の課題) 「アンガーマネジメント」等自分の気持ちやからだをコントロールできる手法を学ぶ必要がある。

(問題点) 発達障害を有する生徒の就労先および就労先のニーズなどに関する情報が不足している。

(今後の課題) 就労のために何が必要か他機関から助言がもらえるような場を設定していきたい。

(問題点) 通級による指導を行う際に、保護者の了解を得るのに時間と労力が必要である。

(今後の課題) 入学前から通級による指導への対応について理解を深めてもらう。

(問題点) 授業の改善については特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを視点に行うことで教室環境や授業の流れについて、教職員が生徒の状況を理解し、改善がみられた分かりやすい授業になり始めた。しかし、生徒の個々の能力をどのようにして伸ばしていくかについては、実態把握も含めて取り込むことができていない。

(今後の課題) 一斉授業については、ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業づくりを行い、どの生徒にも分かるという視点で能力をもつ生徒についても把握し、その力を伸ばす指導や手だてを考えていきたい。